

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点をただし、所見を伺うことです。



長崎 厚 議員

運転免許証の自主返納者に支援を 7



柏倉恵里子 議員

駅前のにぎわい創出をどう考える 8～9



高森 功治 議員

長万部駅周辺における
土地区画整理事業等の方向性について 10～11



辻 紀樹 議員

3期目への出馬の意向は 12～13

運転免許証の自主返納者に支援を

(町長) 免許返納者に限らず、
交通弱者に対する支援を検討する

長崎 全国では、運転免許証の自主返納者に対して公共交通機関の運賃割引などの支援を行っている。当町には、公共交通機関として、JR・函館バス・ニセコバスなどが運行しており、タクシーチケットのほかに運賃の割引など新たな支援が必要と考える。町長の考えを伺う。

町長 加齢に伴う身体機能の低下等のため、運転に不安を感じるようになった高齢ドライバーは、事故防止の観点からも自主的に運転免許証を返納することが望ましいと考える。

しかし、自主返納後に移動手段が無くなり生活が不便になることから、自主返納を促進するためには、地域公共交通の充実が重要となる。

この地域公共交通の現状や課題を整理し、計画策定および実施に必要な

施策検討のため、令和3年度に長万部町地域公共交通活性化協議会が発足し活発な議論を進めている。令和4年度には、地域公共交通計画の策定および新たな公共交通の実証運行など、必要な施策についてこの協議会が実施主体となり事業を推進していく。これらを踏まえ、優先すべき施策として、本町における持続可能な地域公共交通網の形成の取組を推進する。

運転免許証を自主返納した方に限らず、交通弱者に対する支援として、タクシーチケット事業のほかに新たな支援の必要性が生じたときには、その状況に応じた必要な支援について検討していく。

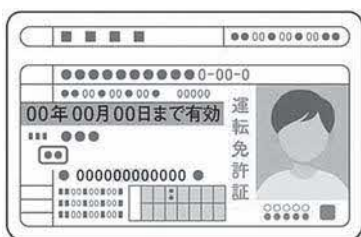
長崎 長万部町地域公共交通活性化協議会の構成メンバーには、国縫や静狩など地域の方も入っているのか。

まちづくり推進課 町内会連

合会や老人クラブの方などに委員として入ってもらっている。

長崎 国縫や静狩、双葉など、長万部中央部から9キロも10キロも離れた住民は、タクシーチケットが2〜3回しか使えない。路線バスを町内に限りタクシーチケットで乗るようにはできないか。

町長 以前、バス事業者と話をした。料金を受け付けるシステムが違ったり、長万部に営業所がないため金券を切り替えるためだけに職員が来ないとならないということがあり、今の段階では扱えないとの回答であった。



定例会2日目、4人の議員より一般質問が行われました。
その内容を要約してお知らせします。

※全文は町ホームページからご覧になれます。

[町ホームページトップ](#)

→

[町議会](#)

→

[会議録](#)

― 柏倉 恵里子 議員 ―

駅前にぎわい創出をどう考える

(町長) 駅前にぎわい拠点、 駅西新駅前拠点を整備する

柏倉 新幹線長万部駅のコンセプトが「湯けむり香る噴火湾、人と時代の交差点」と決まり、今後このコンセプトをベースに鉄道・運輸機構が駅のデザインの素案を作成し、長万部町に示されることになる。

庁舎内でも新幹線推進課、まちづくり推進課が中心となり、いろいろな事が検討されていくことになると思うが、この駅が単に通過駅にならないための方策を考えなければならぬ。既存の町の施設も老朽化していることから、複合施設を駅の近くにとりこめるという声もあがっている。何より今、屋内

の子ども達の遊び場がなく、他町に出かけている状況だ。天候が悪くても子ども達の遊べる場所がほしいのと、高齢者の体力づくりを兼ね備えた施設、例えばジムのような施設が必要だと思う。

また、「湯けむり香る」との言葉から、駅の中に温泉の香りが漂う足湯なども視野に入ってくる。噴火湾が一望できる展望台なども作ってはいかか。新たな観光を作り出す絶好の機会だ。また、新幹線は駅舎の3階部分を通り、長万部町は新函館北斗駅から札幌駅まで一番長い明かり区間となる。新幹線からも噴火

湾が見渡せるような駅舎の設計にできたら素敵だと思うが、町長の考えを伺う。

町長 まちづくりの方向性としても大変重要と認識をしている。昨年3月に策定した長万部都市計画マスタープランにおいても、現在の長万部駅に「駅前にぎわい拠点」と、新しく整備される高砂町側の新幹線長万部駅の位置に「駅西新駅前拠点を整備する方針」となっている。

まず、行政が設置する都市施設について、現在の長万部駅前に、バスやタクシーなどの二次交通の拠点となる新たな駅前

広場と、広域的な観光拠点となる「まちの駅」の整備を検討しており、さらに民間商業施設の誘致も視野に土地区画整理事業の検討も進めている。

また、新幹線長万部駅ができる高砂町側は、新幹線高架下に滞留空間、駐車場を整備する予定で、さらに自由通路により東西市街地を接続する計画である。滞留空間は災害時等の避難場所を想定しているが、雨風や寒さをしのげる空間となることから、平時にもどういった利用方法がよいのか、広さや設備についても今後検討していく。

さらに鉄道施設については、1月31日に長万部高校生が運営と進行を担当した新幹線駅デザイン検討委員会から新幹線駅デザインコンセプトについて答申を受け、3月2日に鉄道・運輸機構に要望してきたところであり、

その付帯意見には「噴火湾を望む誰もが楽しめる展望台の設置」が付されている。

今後、鉄道・運輸機構から具体的なデザインの選定依頼が見込まれるが、その際にも高校生を中心とした検討委員会で検討したいと考えている。

町としては、これら長万部駅を中心に駅前の都市施設の整備や民間商業施設の誘致、町民の想いを込めた駅舎デザインによってにぎわいを創出し、まちの魅力・回遊性、そして地域の活力を高め、災害に強く持続可能なまちづくりを進めていく。

柏倉 コンセプトを決めるにあたり、努力をしてもらった新幹線駅デザイン検討委員会のみならず、まに心から感謝を申し上げたい。とても素敵なコンセプトだ。さらに望めば、新幹線の乗客からも噴火湾を望めるような駅

舎のデザインは可能か。

町長 機構で今回のデザインコンセプトを受けて、3案の中からさらに選定をしたうえで設計に活かしてくれるという話だ。来春にはデザイン案ができあがってくると思うのでそれを楽しみにし、可能な限り希望の持てる駅舎にしてほしいとお願いしている。

柏倉 私が一番欲しいのは子ども遊び場である。滞留空間ができるという話だが、子どもの遊び場を作る事は可能か。

町長 広さについては設計段階にこれから入っていく。



にぎわいの拠点となる予定のJR長万部駅前

当町から、駅舎の施設利用について3案提示した。資料館に展示してある鉄道村の展示室の設置。交流施設として、キッズルームや人の交流広場の設置。渡島・檜山・後志・胆振等近隣町の広報スペースの設置。この3案を3月2日、機構に直接お願いした。

柏倉 私の希望だが、単に滑り台や簡単な遊具があればいいというのではなく、本当に考えられたデザイン性のある、子ども達にとって機能がとてもよい、そんな遊び場を考えてほしい。子どもがいる所には大人も必ずいるので、にぎわい創出にも一役買うのではと考えるが。

町長 新幹線駅の運営はJR北海道である。そのことの協議で、どの程度のスペースが取れ、駅としての機能を果たしながら人の交流もできるような施設にしてほしいという要望はあげてきているが、あくまで駅としての機能を尊重しなければいけない。

今後1年のデザイン設計の中で、鉄道・運輸機構に話していければと思っています。

柏倉 駅ナカが無理であれば、駅の近くにその

ような施設が誕生することを切に希望したい。

今まで、町長の思う駅の話聞いたことがないが。

町長 私が発言するとそれに意見が固まる可能性があり、町民の思いがこもった物を作るためには、意見誘導しないというのが現実だ。

予定される駅舎は3階建てで、特急が1階に着き、誘導路線の2階を通って、新幹線が発着する3階へ登るといふ、特殊な駅の使い方になるという話もある。

できるだけ北海道の雄大な景色が見られる駅を3階に作ってほしいという話は、鉄道・運輸機構に届けている。機構も何回も現場を見ながら試行錯誤し、一本一本線を引いてく。

新たにできる自由通路のCGもできあがってきたので、それらも含め一

度報告会をやりたい。

柏倉 「人と時代の交差点」というコンセプトから思い巡らすと、国鉄時代から今に至るまでの歴史がわかるような形のものにしたいのかなと考えるが、そこら辺も配慮した鉄道の資料館ということになるのか。

町長 長万部は国鉄の町として栄え、衰退もしたが新たに新幹線で蘇ってくる。鉄道村の資料は、鉄道・運輸機構も視察をした。展示品のリストも全部揃えてある。やはり長万部の歴史は鉄道である、ということの後世に伝えていくためにも、新幹線駅舎で大事に展示してたくさんの方に見てほしいので、鉄道村の設置については第一に要望している。

— 高森 功治 議員 —

長万部駅周辺における 土地区画整理事業等の方向性について

(町長) 土地区画整理事業を導入し町を再編したい

高森 昨年3月に策定

された「長万部都市計画マスタープラン」では、今後20年の戦略的まちづくりの方針として、長万部駅周辺における重点的な都市整備の推進を掲げており、内容として、本町通の拡幅整備と一体的な街路事業整備を推進するとともに、土地区画整理事業の導入を検討するとされている。

その後、昨年10月に土地区画整理事業化検討業務委託を発注し、令和4年3月定例会の町政執行方針では、土地区画整理事業の導入を検討するとされたが、現在のところ、駅前周辺の本町通商店街や本町通の拡幅整備等がどうなるかという話はまだ聞こえていない。

1、土地区画整理事業について。

2、本町通の拡幅整備について。

以上2点について、町

長に今後の方向性を伺う。

町長

1、都市計画マスタープランの方針に基づき、土地区画整理事業の可能性を検討してきたが、将来の新幹線長万部駅東口駅前広場と本町通の拡幅整備に加え、防災面において線路より海側の市街地が津波浸水区域であるものの、高層建物が少ない現状を踏まえ、本町・大町地区の住民の津波避難施設を兼ねた商業施設の誘致と、また、現在衰退しつつある本町通商業区域の再編を視野に入れ、土地区画整理事業を導入する方向で検討を進める。

施行区間は、本町通の駅前から役場通前まで。

奥行きは、本町通から海側と線路側それぞれ町道に囲まれる区域を想定し、施行区域面積は約3ヘクタール。商業施設等誘致に向けた大規模区画の造成、区域内の土地区画の

整理、本町通および町道の拡幅整備を計画する。

なお、土地区画整理事業の実施にあたっては、事業計画を策定し、北海道の都市計画審議会での審議が必要となることから、新年度予算において事業計画に必要な基本構想の策定に係る予算を計上している。

2、町道本通線の駅前

から室蘭方面の国道37号交点と駅前広場について、道道昇格のうえ北海道の街路事業での拡幅整備を要望してきた。要望ヒヤリングでは、街路事業での単独整備は事業の費用対効果に問題があると難色を示されているものの、土地区画整理事業などの面的な都市整備であれば、まちづくりに協力するなどの検討は可能との見解があり、土地区画整理事業の区域内においては、本町通の拡幅を北海道で実施してもらえると見込

んでいる。

高森 土地区画整理事業を導入する方向とのことだが、事業の規模と金額、町の負担、スケジュールは。

新幹線推進課長 総事業費は約31億円。長万部町の負担額は、条件により8億円から9億円程度と想定している。スケジュールとしては、新幹線開業予定の2030年度までに事業完成を目指すのが望ましいと考えている。

高森 8億円から9億円という金額は非常に大きいと思うが、それでもこの事業は信念を持ってやらなければいけないという考えか。

町長 今、土地区画整理事業と駅前広場の関係を含めてやらないと、戦前戦後から動いてない変わってない長万部の町を変えることができない。それに8億円から9億円

が高いか安いかは議論の
的になる話ではあるが、

1年でできる事業ではな
く、これに伴い商売をし
ている方には一度仮設で
も別の場所で商売しても
らわなければならず、そ
こもきちんと寄り添って
事業を進めていかないと
いけない。

高森 元町地区本町通
の街路拡幅の可能性は。

新幹線推進課長 北海
道との協議では、役場前
通りから国道までの交点
は街路事業単独整備が相
応しいとの意見があり、
実施可能性はあると考え
ている。ただ順番的に、
土地区画整理事業の整備
後になると思うが、引き
続き北海道の街路事業で
の拡幅整備を要望してい
く。

説明する必要があるのは。
は。

新幹線推進課長 住民
説明会と、権利者向けの
説明会を準備ができ次第
4月以降に実施したい。

高森 私はこの事業は
大賛成だ。長万部町に
とって活性化の最後のチ
ャンスであり、50年後1
00年後の町の姿を左右
するような事業になると
考える。もっとお金をか
けインパクトのあること
をしてもいいのではない
か。

町長 できるだけしつ
かりとした土地区画整理
事業をやって町を再編し、
その後の元町地区の事業
も継続していけるような
ものにしたい。

高森 他町で実績のあ
る、例えば商社などの力
を借りる考えは。

町長 長万部町の力だ
けでなく、外部の知見は
取り入れていきたい。

高森 防災面でも想定

外という事がないよう、
ないがしろにしないよう
にきっちりやってもらい
たい。

町長 もちろん防災減
災についても、これから

計画を立てるにあたり将
来に禍根を残さないよう
きっちり検討していく。



土地区画整理事業施行予定の区間の一部

議会の会議録はホームページでご覧になれます

長万部町ホームページトップ → 町議会 → 会議録 からお入りください。

長万部町役場ホームページ

<http://www.town.oshamambe.lg.jp>

— 辻 紀樹 議員 —

3期目への出馬の意向は

(町長) 町長選挙に立候補し、
変わる長万部へと努力したい

辻 木幡町政誕生から2期8年を迎えようとしている。この間「新幹線駅の地上駅から高架駅へ」・「高校生までの医療費無料化」の実現、新幹線駅を中心としたまちづくり計画や、各種事業計画も作成された。

今後の課題として、函館本線の余市〜長万部間の在来線は廃線とし、バス運行への転換との方向に沿線町村で確認されているが、長万部町にとって最も重要な函館〜長万部間については並行在来線の存廃の方向性が示されておらず、貨物部門については国や道から何も示されていない。

町立病院建設については、早期の着工を要望する声も多く聞かれる。また、長万部高校の新年度入学生は13人との新聞報道があった。道教委の指針では、2年間入学生が10人を下回ると廃校と示

されている。多くの課題は残されているが、町長としての8年間の経験を活かし、多くの課題・難題に積極的に取り組むとともに各種計画の実現に向け、引き続き町政を担う考えがあるかどうか伺う。

町長 私は、町長の重責を担わせてもらって以来、今日まで町民の生命と財産を守るという信念のもと、町民の皆様の声に耳を傾け、夢と希望を持ち安心して暮らすことができるまちづくりを目指し努力してきた。

本年7月12日告示、7月17日投開票の長万部町長選挙にあたって、これまでの2期7年8か月を振り返り今日まで熟慮を重ねた。

就任以来、防災・減災対策の強化、子育て支援の充実に取り組み、東京理科大学長万部キャンパスと平成27年に締結した

包括連携協定による揺るぎない密接な関係は、新型コロナウイルス感染症で途絶えているが、令和5年4月には学生の元気な歓声がこだまする環境になることを願い、温泉水供給の実現と連携の強化を図り、B&G財団との不断の親密な交流も継続しているところである。

来年度以降は、並行在来線長万部・余市間のバス転換の前倒しや、函館・長万部間の協議、将来に向かつて持続可能な地域公共交通計画の作成、開基150年を迎える令和5年には新幹線長万部駅開業に向け、本町通の

道道拡幅や土地区画整理事業を含めた都市計画決定など、今まで積み重ねてきた多くの事業が形になって見えてくる時期であり、また、津波の被害が心配される町立病院の移転新築事業の立ち上げなど、財政状況には厳

しさもあるが行政は立ち止まることができない。福祉・産業・教育、進む人口減少・少子高齢化への対策や国が推進するゼロカーボン、行政のデジタル化、SDGsを実践する町として、アフターコロナを見据えた取組を推進するため、来たる町長選挙に立候補を決意し、変わらぬ長万部から変わる長万部に全身全霊をもって努力したい。

辻 大変力強い立起表明をもらった。今日はたくさんの傍聴者も来ているので、町長の今頭の中にある思いをもう一度発信してもらいたい。

町長 今から7年何か月前、初めて選挙に出た時はまさか勝てるとは思わなかった。これは本音である。しかし課題もあったので挑戦しようと思った。平成18年度の「北海道新幹線長万部駅周辺整備構想」、これは

議会の特別委員会でも議論して国土交通省に出され、平成24年に長万部町で起工式が行われた。その後、町長選挙の立候補にあたって考えたのは、今の並行在来線と同じ駅の中に新幹線が来るということと、元町と火防踏切付近の2箇所にあるアンダーパスを作るという計画、これは将来に向かって無謀である。この計画はどうしても破棄し別な方法にしてほしいという思いで、立候補し当選させてもらった。

まず、一番先に手をかけたのは、子育て支援の医療費の無料化と保育所の無料化。そして次に、新幹線をなんとかしたいとの思いで、議長はじめ議員みなさんにも同行してもらい、横浜の鉄道・運輸機構や国土交通省に何度も足を運び長万部の実態を訴え、なんとか2年で認可変更を取りつけ

た。そして今年3月2日に新駅舎の要望書も届け、要望のとおり設計に反映され、来年初めて高架駅の駅舎の設計が見られる。

山線の在

来線問題はバス転換で決定したが、函館・長万部間が進展していない。

今年、七飯町の町長が退任されると、連絡協議会の中で古くからいる委員は私だけになるが、函館方面も解決の糸口を付けたい。また、土地区画整理も2030年までに完成ということになる



長万部町のまちなみ

と、7年も8年もかかる大きな事業である。町民に理解してもらい、みなさんの心に寄り添った形で工事の計画を進めたい。

そうした問題は、やはり体を張って全身全霊で頑張らないと話にならず、躊躇せずにやるということである。それと同時に、今変えないと長万部は変わらない。変わらない長万部を70年も80年も続いてきたところを思いきり将来に向けて変えていく。これが我々が次世代に残す長万部の町だということを含め、これから真摯に取り組んでいきたい。津波対策などやることは山積しているが、議会や町民のご理解をもらい、努力することにより完成に近づきたい。

そのような考えを持ちながら、変えていく長万部を作っていくとの決意を持ち、今回立候補することにした。ご支援よろしくお願いしたい。

意見書を提出しました

意見書3件、決議1件を原案どおり可決し、関係機関へ送付しました。

- ◇介護職員の処遇改善に関する手続きの簡素化と対象職種の拡大を求める意見書
- ◇地方創生と感染症対策に資するデジタル化の推進を求める意見書
- ◇国民の祝日「海の日」の7月20日への固定化を求める意見書
- ◇ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、平和的解決を強く求める決議